

# 利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所  
 発行人 竹之内 篤  
 〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地  
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180  
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.lg.jp

## 総務係 「チーム学校」に係る学校課題解決への取組 ～事務職員特配校の実践～

『事務職員が、学校で扱う業務の改善を目的とした検証を行い、業務改善を主導することにより、事務職員の資質向上を図るとともに、教員が専門性を発揮できる環境の整備や学校の組織力向上を図る』ことを目的に、本県では平成27年度から学校事務職員の特配を配置しています。利根沼田管内では、平成29、30年度に沼田市立白沢小学校に配置し、「チーム学校」に係る学校課題の解決に向けて取組を進めていただきました。

### 白沢小学校の実践事例

白沢小学校では、学校事務職員が組織マネジメント能力を発揮して、学校全体の業務処理に係るマニュアル等を作成するなど、学校全体の業務の“見える化”“スリム化”を推進し、効率的な学校運営を図ることと、すべての教職員が各々の専門性を発揮できる環境の整備や学校の組織力向上を目指し、様々な実践を行いました。

その中の実践例として、事務職員が調整役となり、各担当の情報をつなぎ、児童の活動まで結び付けた事例(事例1)と、業務の流れを示し、システム化を図った事例(事例2)を紹介します。

#### 【事例1】「ヒヤリハットマップ」の作成

校内で児童が安全に生活するために留意させたい情報は、各担当が保有しています。

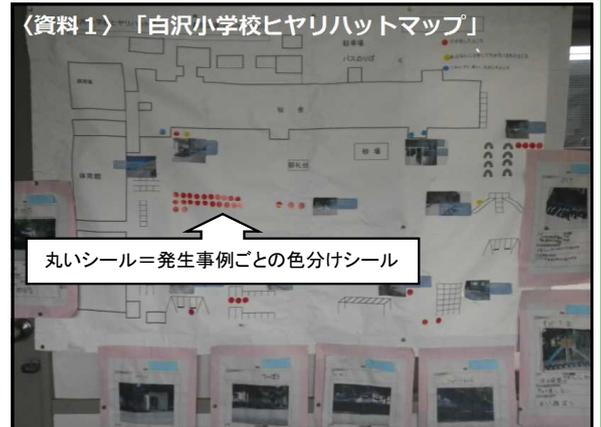
- ・保健担当：「児童がけがをしたところ」
- ・生徒指導担当：「危険箇所での注意をしたところ」
- ・事務担当：「不注意による破損で修理したところ」
- ・安全担当：「点検による危険箇所情報」

本校では、これらの情報を共有することにより、担当間の連携を図ることが重要であると捉えました。

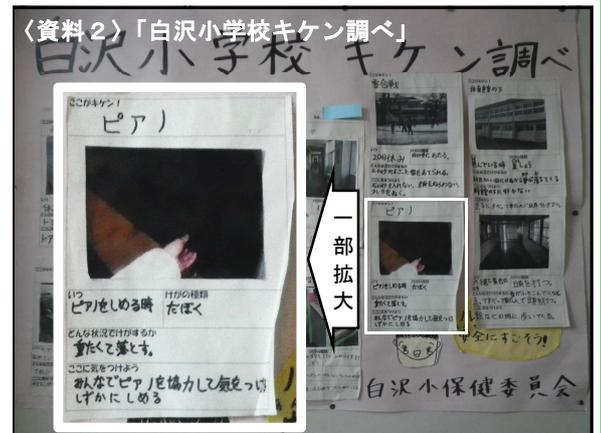
具体的には、個々の情報を校内地図に落とし込み、発生事例ごとに色分けシールを貼り、視覚的注意を促すものです。例えば、校庭でけがをした箇所には22個の赤シールが貼られました。視覚的に危険箇所の注意喚起を促すことにつながります(資料1)。さらに、養護教諭の働きかけにより保健委員会活動と結び付け、児童が作成した追加の掲示も行いました(資料2)。児童が見つけた危険箇所の情報と合わせて掲示したことで、安全に生活することへの児童自身の意識を高めることができました。

#### 【事例2】「修繕の流れ」の具体化

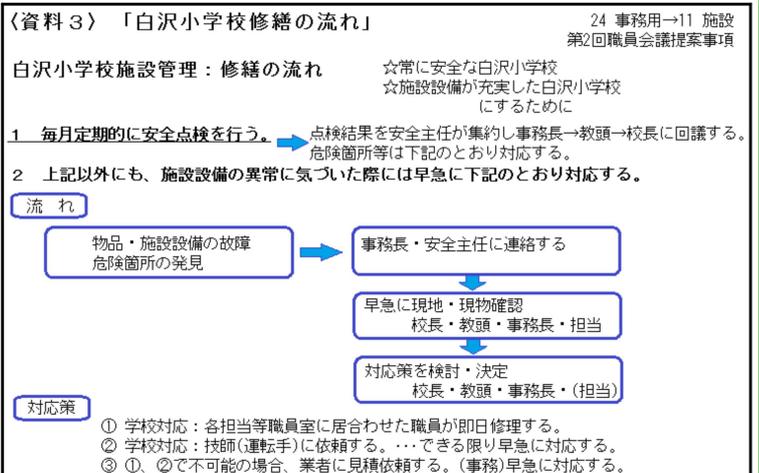
危険箇所が発見された際、その対応は曖昧になりがちです。安全点検で指摘されても対応が先送りになってしまうことがあります。そこで、「施設管理・修繕の流れ」(資料3)を作成し、資料中の『流れ』にあるように危険箇所や修繕箇所発見者は速やかに関係職員と連絡を取り合い、その後修理や業者へ連絡するなど、即日の対応を徹底しました。これにより、毎月の安全点検時には危険箇所の報告がほぼなくなりました。



丸いシール＝発生事例ごとの色分けシール



一部拡大



今回は、学校が有機的に機能するための担当間連携と、その仕組みづくりに関する事例を紹介しましたが、研究ではさらに地域との連携協働推進や働き方改革に関する検証にも取り組んでいただきました。学校において内外の資源を有効に活用しチームとしてマネジメントすることが重要であり、そのことを各担当が意識することで、確実に学校課題の解決を図っていくことにつながります。

# 生涯学習係 ～これからの地域と学校の連携・協働に向けて～

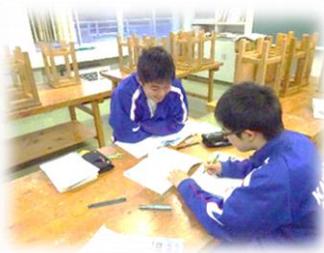
第3期群馬県教育振興基本計画（取組38）には、「学校・地域の連携・協働による地域の活性化」として「個々の活動に携わる人たちが互いに情報を共有するとともに、目標や方向性について意見を出し合うなど、地域全体で子どもたちを育てていくための仕組みづくりを進めます。」とあります。学校はこれまで、地域と連携しながら教育活動に取り組んできました。今後は、学校支援センターの機能をベースに地域が学校や子どもたちを応援・支援するという一方の**関係から、地域と学校がパートナーシップに基づき双方向の関係になることがますます重要**になっています。

## 地域と学校の連携・協働に向けて「地域学校協働活動」を充実させましょう！

活動内容は地域の実情において様々です。例えば、放課後子ども教室に始まり、学校の授業支援や環境整備、登下校の見守り、放課後や土曜日の教育支援等、今、実施している活動を地域と連携しながら充実させていくことが大切です。そこで、今回は「地域と学校のパートナーシップ推進フォーラム」での事例発表から、学校と地域が思いを共有して取組を進めたことで、活動の効果が上がった事例を紹介します。



### 【事例1】 生徒の自主的な学習意欲の向上を目的とした放課後の学習支援教室



川場中未来塾



教師

地域の方が生徒個々の思いを聞き取って教えてくださるので、助かっています。私たちも学習プリントを用意するなど、できる限り協力しています。



学習支援員

生徒さんの思いを先生に相談しながら進めています。生徒さんとの信頼関係が築けてきましたので、徐々に地域に愛着をもって行ってほしいと思います。私たちがやりがいを感じてやっています。



生徒

地域の人にヒントをもらい、分からないところが解けると自信につながります。毎回、参加して学力を伸ばしたいです。

## 地域学校協働活動を進めるための「場づくり」をしましょう！



地域学校協働活動の推進には、学校と地域が活動の目標やビジョンを共有する「場づくり」をすることが有効です。従来の地域と学校の連携体制を基盤として、より多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成しながら、地域と学校がより良い関係を築けるような体制づくりを目指しましょう。

### 【事例2】 地域と学校が子どもの活動を情報共有する場



片品村地域学校協働活動運営協議会



校長

学校の行事に合わせて、子ども教室の活動日や内容を考えてくださるので、とてもありがたいです。



児童クラブ  
指導員

活動を設定しても子どもがあまり参加しない……ということもありましたが、学校と情報を共有することにより、参加人数が増えました。また、子どもの取り合いにならないように、それぞれの団体が連携して一緒に活動することにより、活動内容が充実し、子どもたちも喜んで参加しています。



児童館長



教育委員会  
担当

毎月末、話し合う内容を絞って短時間で実施しています。



放課後子ども教室  
協働活動支援員

誰かが何とかしてくれる、のではなく、自分たちが『当事者』として自分たちの力で学校や地域を創り上げていく。子どもたちのために学校を良くしたい、元気な地域を創りたい、そんな思いをもちながら社会総掛かりによる教育を実現するために、地域学校協働活動を推進していくことが重要です。